

HALZ × コロンビアスポーツウェアジャパン — 担当者が語る信頼関係とキャリアの歩み —

インタビュー対象：松岡さん・馬場さん

ク ラ イ ア ン ト 紹 介

コロンビアスポーツウェアは1938年、アメリカ・オレゴン州で創業したアウトドアブランドです。機能性とデザイン性を兼ね備えたウェアやギアを展開し、世界中のアウトドアファンに親しまれています。

日本法人の株式会社コロンビアスポーツウェアジャパンは1997年に設立。直営店や百貨店、専門店を通じて、日本のアウトドアライフを支えています。現在は「コロンビア」に加え、「ソレル」「モントレイル」「マウンテンハードウェア」の4ブランドを展開中です。



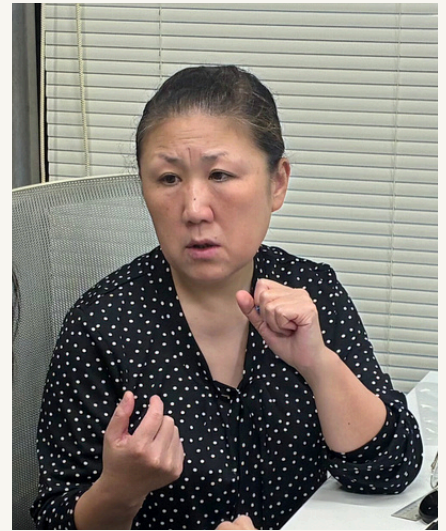
【松岡さんインタビュー】

・学生時代と進路選択

Q：松岡さんは学生時代に何を勉強していましたか？

A：私は経済学部で経済学を専攻していました。入学したのは今から何十年も前で、当時は女子が4年制大学に進学すること自体がまだ一般的ではありませんでした。両親からも「浪人してまで大学に行ってはいけない」と言われていたほどです。結果として入学した大学では、1学年に女子学生がわずか30人程度しかおらず、ほぼ男子ばかりという環境でした。

そのため、女子学生同士は自然と団結し、「にこやかに挨拶する」「授業は一緒に受ける」といった独特の文化がありました。今では想像できないほど女子学生が少なかった時代ならではの経験だと思います。社会に出て直接役立ったわけではありませんが、自分の興味のある分野を学べた4年間だったと振り返っています。「好きなことに勉強できた4年間だった」と今でも思っています。



松岡さん

・キャリアの始まりと転機

Q：松岡さんは、いつ社会保険労務士の資格を取られたのですか？

A：実は、社労士の資格を取ったのは非常に遅かったんです。私は新卒で大手小売会社に入社し、23年間勤めていました。最初は衣料品の部門を担当していましたが、マーケットの変化でそれらの部門の業績が下がり、最終的には部門自体が廃止されてしまいました。

その時に「これからの自分のキャリアをどうするか」を本気で考えました。弁護士や会計士のような難関資格は現実的ではなかったので、身近な労働法・社会保険に関わる社労士に挑戦することにしました。働きながらの勉強は本当に大変で、受験回数は3回、勉強期間はなんと7年にもなりましたが、やっとの思いで合格しました。

Q：そのあとはHALZに入社したのですか？

A：いいえ、HALZの前に一度、別の社労士事務所で勤務していました。そこでは実務未経験の人材も積極的に受け入れており、人事や総務以外の経験を持つ人も多くいました。25人ほどの規模で、社労士事務所としては比較的大きく、日々の手続きの量も膨大でしたが、その分多くの経験を積むことができました。

・コロンビアスポーツウェアジャパンとの関係

Q：松岡さんは、いつからコロンビアスポーツウェアジャパン様の人事業務のサポートを担当するようになったのですか？

A：HALZ入社後まもなく、前任者の退職に伴って担当を引き継ぎました。前任者は、北海道大学出身の非常に優秀な方で、ITスキルも高く、業務の効率化を自作のExcelツールなどで実現していました。引き継ぎ期間はわずか1か月半。その間に何度も練習して、彼女と同じアウトプットを出せるようになるまで繰り返し作業しました。

Q：今では具体的にどのような人事業務を担当していますか？

A：給与計算全般とそれに付随する手続き、そして顧問契約に基づく軽微な労務相談を担当しています。また、給与システムの入替えにも関わり、新しいシステムでもトラブルなく業務を継続できるよう対応しました。

Q：現在の業務内容は、引き継いだ当初と比べて変化はありましたか？

A：給与計算の仕組み自体は変わっていませんが、業務ソフトの入替えがあったことで、操作方法や管理フローは大きく変わりました。HALZでは「データの作成から入力・検算まで一貫して行う」ため、制度の理解が不可欠であり、前職とのギャップは大きかったです。

・HALZの強みと信頼構築

Q：HALZがコロンビアスポーツウェアジャパン様に長くご信頼いただいている理由は？

A：第一に、担当者個々の誠実さと実直さです。前任者は、給与調整対象者へのレター送付など細やかな対応を徹底しており、その姿勢がコロンビア様からの信頼につながったと思います。

また、ITスキルも重要です。高いExcelスキルと自動化への理解が、業務の正確性と効率を支えています。実際、そういったスキルがなければ、この業務は継続できなかったと思います。

Q：HALZの強みは何だと感じていますか？

A：ミスをしない仕組みづくりと、それを運用できる体制です。私自身も最初の年末調整の際、カスタマーセンターに何度も問い合わせ、手順を一から確認しながら進めました。間違えれば委託打ち切りになってしまうというプレッシャーの中で、HALZの体制と支援があったからこそ乗り越えられました。

Q：業務を通して学んだことや印象に残ったことはありますか？

A：一番印象に残っているのは、年末調整を一人で初めてやった時のことです。不安で心臓がバクバクしていましたが、何とか無事に納品できたときは本当に安堵しました。また、コロンビアの人事部長は元関東圏の大手テーマパークで、経営中枢としての人事の在り方を体現しておられ、その姿を間近で見られたのは本当に学びでした。

【前任・馬場さんインタビュー】

松岡さんが「信頼の土台は前任者たちの積み重ね」と語ったように、その歩みをつないできた方の一人が馬場さんです。新卒で入社してすぐにコロンビアスポーツウェアジャパンを担当された経験について伺いました。

・担当の始まりと背景

Q：コロンビアスポーツウェアジャパン様を担当したのはいつ頃からですか？

A：2010年の5月下旬からです。入社して1か月ほど経った頃、突然「明日からコロンビアに行ってほしい」と言われて（笑）。当時オフィスは原宿にあり、私は学生時代に原宿へ行ったこともほとんどなかったので、とても新鮮でした。実は入社前から半年ほどインターンをしていたこともあり、現場に出る準備はある程度できていましたが、常駐先に出るのはやはり緊張しました。

Q：当時はどのような業務を担当されていましたか？

A：コロンビア様の社内に常駐し、給与計算と社会保険手続きを全面的に担当しました。きっかけは、当時の担当者が産休に入られることになったからです。社内に代わりをできる人がいない状況で、HALZに常駐サポートの依頼があり、私が引き継ぐことになりました。社内の従業員からの質問にも直接対応しなければならず、新卒の私には大きな挑戦でした。



新卒時期の馬場さん

・新卒での挑戦と苦労

Q：特に大変だったことは何でしょうか？

A：とにかくすべてが初めてで、業務を覚えることに必死でした。コロンビア様独自のシステムを産休に入られる社員の方から引き継ぎながら操作を習得したり、日々寄せられる従業員の問い合わせに対応したりする必要がありました。また、私は人の名前を覚えるのが苦手で、向こうは私を知っているのに自分は名前を思い出せない、という状況もあり、その点ではとても苦労しました。

Q：そのような難しい状況にどう対応しましたか？

A：まずは業務をマニュアル化しました。日報を書きながら、その日の作業内容を細かく記録し、忘れないうちに手順書に落とし込むようにしました。例えば勤怠チェックの流れやシステム操作など、一つ一つを文章にして残すことで、再現性を高められました。また、同僚の方々とお昼を共にしたり、雑談を大切にしたりして、社内に溶け込むことを意識しました。最初は不安が大きかったですが、周囲の方々がとても優しく受け入れてくださったことが救いでした。

・担当期間と印象深い出来事

Q：その後、業務内容や立場に変化はありましたか？

A：基本的には1年間、給与計算と社会保険の担当者として常駐していました。社内の人事担当者のように位置づけられ、従業員の方々と日々接しながら業務を行いました。外部のサポートという立場でありながら、内部メンバーのように責任を持つという点で大きな学びがありました。

Q：印象に残っている出来事がありますか？

A：印象に残っている1つは、住民税の納付データに関するトラブルです。私の仕事はデータを作成して課長に渡すところまでで、実際の振込操作は課長が行うのですが、システム入力の際に処理が完了せず、納付ができていなかったことがありました。私の責任ではありませんが、目の前で困っている状況を見て「一緒にリカバリーしよう」と対応しました。課長にはとても喜んでいただき、信頼をより強めてもらえるきっかけになったと思います。その経験から、業務範囲を守ることはもちろん大事ですが、協力できるときは力を貸すバランス感覚の重要性を学びました。

・学びと今につながる姿勢

Q：コロンビアスポーツウェアジャパン様を担当して学んだことは？

A：新卒で初めての常駐先だったこともあり、企業人事の実態を肌で感じられたのは大きな財産です。HALZの中にいるだけでは見えない「他社の人事の仕組み」や「他部署との連携」を間近で経験できました。また、藤田さんがよく言っていた「ギブ・ギブ・ギブ」の精神——ギブ&テイクではなく、まず与えることを優先する姿勢——を意識するようになりました。仕事は、信頼と感謝をどう得るかが鍵だと実感しました。



【編集後記】

初めまして、今回の社内報を担当したインターンシップ生の劉 鏢疑（リュウ シャクギ）です。

HALZとコロンビアスポーツウェアジャパン様の回を取材するにあたり、松岡さんと馬場さんに直接お話を伺う機会をいただきました。お二人のお話から浮かび上がったのは「誠実さ」と「人とのつながりを大切にする姿勢」です。松岡さんが築いてこられた信頼の裏には、馬場さんが新卒時代から実直に取り組み、土台を形づくってきた歩みがあります。HALZとコロンビアスポーツウェアジャパン様との長年の関係は、担当者一人ひとりの努力と工夫の積み重ねによって支えられているのだと実感しました。

また、お二人のキャリアの歩みは私自身にとっても大きな学びでした。松岡さんのように学び続ける姿勢は、キャリアチェンジの可能性を切り開く力になること。そして、馬場さんのようにクライアントからの信頼と感謝を大切にする姿勢は、長期的な関係構築に不可欠であることを強く感じました。

今回のインタビューを通じて、自分自身の今後のキャリアパスについても改めて考えさせられました。社会人としてどのように成長していくべきか、その心構えを持つ大切さを学んだ時間でした。